



農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員長 松永晋一
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市
農業委員会事務局
飯山市役所農林課内
電話：62-3111
(内線261)
FAX：62-6221

飯山の旬の食材を使った飲食店「飯菜食堂」

38店舗でスタート

農業委員会は市、飯山飲食店組合と協力して4月から、飯山の農産物の魅力を伝えるため、地元の旬の食材を使った料理を提供する飲食店を紹介する「飯菜（いいな）食堂プロジェクト」を始めました。プロジェクトのきっかけは、



イラストの食材が食べられます

昨年5月に農業委員会と飯山飲食店組合の役員との懇談会です。地元旬の農産物の食材をいかにして市内の飲食店で食していただくことができるかを検討する中で、店頭で食材のイラストを描いた看板を設置して、何の食材を食べることができるのかを分かるようにするという方針を固めました。プロジェクトの名称「飯菜食堂」は、「飯山の野菜」と「飯山の農産物はいいな」の意味を込めて名付けました。そして、食材を菜の花（野沢菜）・アスパラ・ズッキーニ・キュウリ・トマト・ナス・キノコの7種類と決めました。

看板は、和紙に描いたイラストを照らし出すようにし、イラストは入れ替えて、旬の農産物をPRしていただくことにしました。

事業者と懇談会開催

6月27日、市役所において、「飯菜食堂参加事業者」との懇談会が開催されました。飯山市飲食店組合から役員4名と、信州いいな観光局の担当者2名にご参加いただきました。飲食店組合の山崎組合長は「色々な苦労があったが徐々に参加事業者も増えていく。現状は取り組んでよかつたと思っている。これをきっかけに新しい動きにしていければ」とのことでした。

「飯菜食堂」の看板については、大きさもデザインも好評でしたが、「和食の店舗ではマッチするが、洋食の店舗ではどうなのか」といった意見もありました。また、4月から始まったこのプロジェクトの認知度は低く、「看板がイラストのみで、何を意味するものかわからない。明記されていると分かりやすいのではないか」との意見が出され、看板につい



これは今後の課題も提起されました。

プロジェクトに対するお客様の反応については、「知らずに訪れた人にも内容を説明すると『いいね』と評価いただいている」とのことでした。

今後の対応については、「伝統的な調理方法を市のホームページ、お店のSNS、新聞等を通じて発信したらどうか」という意見が出ました。「飯菜食堂」を広く多くの人に認知していただけるよう、今後も意見交換を重ね、協力していきます。

農政対策委員会 小林喜代春

あぜ道だより



常盤地区農業委員 佐藤 弘子

大勢の力で！

常盤田んぼも「みゆきポーク」も

常盤田んぼは例年のように田植えも終え、しつかり根付いた苗も分けつを始め、カエルもにぎやかに合唱しています。青々とした田道を軽トラを走らせ、「あの田は、こちの田は」と心配した春先のことを忘れたかのように平和な様相です。

昨年10月の台風接近により地区を流れる川の増水で田が浸水し、稲わらが堆積しました。雪解け後の4月、ボランティアを募り稲わらを乾燥させて燃やし易くする「ほかし作業」を行いました。約100人余が熊手やフォークで懸命に作業をしました。地元挙げてこの大勢の取り組みによって、みよりの多い秋を笑顔で迎えられることでしょう。

さて、この時の水害は我が養豚場でも大変な被害となりま

した。夕方には高床式の分娩室もかなり増水して、床に足を着くこともできない仔豚たちは泳ぎ始めていました。駆け付けてくれた農協職員と200頭位の仔豚を屋根裏などに避難させて、すでに私の首丈程にまで達した水位の中で心配しながら豚舎を後にしました。

思ったより水の引きが遅く、母豚や雄豚、肉豚たちは水や餌をもらえずにいましたが、市や農協、各関係機関の方たち、親戚と大勢の方の応援で、やっと平生を取り戻すことができました。屋根裏の仔豚たちも適宜に分けられて、それぞれの新しい親子関係の中、勢いよくおっぱいに吸い付いていました。

今年で26年目になる「みゆきポーク」ですが、たつた2戸の農家となり、後継者不足から存続の危機を抱えています。今年もふるさと学習の中で常盤小学校の5年生が「みゆきポーク」について学習を始めたというところで見学に訪れました。「おいしさのひみつ」や習性など愛らしい豚から多くを学んでほしいと思います。



夫の良昭さんが「みゆきポーク」について子どもたちに説明

身近に迫った鳥獣被害

農業委員長職務代理 月岡 信一（飯山地区）

我が家の畑は旧国際スキー場付近にあり、私が生かすものは、狭い山道でリヤカーが使えないため、両親は背負子を使ったり牛の背に荷を乗せたりして坂道を上り下りして、たいへん苦労していました。時には私も牛の背に乗せてもらい、山の畑へ向かった記憶が懐かしいです。

昭和30年代後半には農道が整備され、山の畑へも車で行くできるようになりました。当時は農作業をしている人の姿が多く見られ活気がありました

が、高度経済成長期を迎えて、農業を志す人が減少の一途をたどり、農業者の減少とともに農地の荒廃化が急速に進みました。

それに伴い鳥獣被害が徐々に増え始め、以前は野ねずみの対策程度でしたが、今では比較的馴染みのある狸をはじめとして、北信地域では生息していなかった鹿、カモシカ、ハクビシン、熊、猪などが畑を闊歩している状態です。数年前までは鳥獣害対策は他人事のように思っていましたがいよいよ身近に迫ってきました。

近くの水田は猪に荒らされ、今まで全く被害が無かつたさつま芋やカボチャも去年は全滅でした。熊や猪には身の危険さえ感じます。今年も熊の目撃情報は絶えません。我が家のアスパラ畑にも熊の足跡が見られ、熊に遭遇しないように、早朝や夕方に畑に行くのを避け、更に鈴をぶら下げながら作業しています。

鳥獣被害が増えた要因として、木材輸入の自由化により山林の価値が下がり、手入れがなされなくなったこと。そして、農業者の高齢化が農地



担い手農家のように大規模化はできませんが、この先体が動く限りは自分のペースで今の仕事を続けていけたらと願っています。

農地利用状況調査（農地パトロール）を実施します

農業委員会では農地の確保と遊休農地化の防止を目的として、農地の利用状況調査を実施します。農地への立ち入りなどにつきまして、ご理解とご協力をお願いいたします。調査の期間：8月から9月まで

あしあと 5・6月の活動記録

- 5月10日 農業委員会役員会
- 28日 5月農業委員会総会
- // 農政対策委員会・情報委員会
- 6月8日 農業委員会役員会
- 27日 「飯菜食堂」参加事業者との懇談会
- // 6月農業委員会総会